平成25年度　第１回　産業医部会幹事会　議事録

日時：平成25年5月14日(火)　13:00～15:00

場所：愛媛県松山市　ひめぎんホール

（第86回日本産業衛生学会　第7会場）

（出席者）佐藤広和、菅原保、色川俊也、谷山佳津子、宮本俊明、加藤憲忠、服部真、斉藤政彦、岩田全充、寺澤哲郎、伊藤正人、森口次郎、宇土博、山本真二、杉原由紀、竹﨑雅之、織田進、彌冨美奈子（遅刻）中平浩人

（欠席）羽賀將衛、福本正勝、中西一郎、小田原努

斉藤部会長代理の司会で開会し出席者が自己紹介を行った後、部会長選出選挙を実施した。

出席者18名で選挙を行った結果（有効票18票、無効票0票）、斉藤：12票、宮本：6票

菅原：０票の結果にて、斉藤政彦幹事が部会長に選出された。

議事：斉藤部会長が司会となり、就任の挨拶の後、議事を進行した。

1. 審議事項

①今後の体制と幹事会の進め方（斉藤）

　斉藤部会長より、副部会長に宮本幹事の推薦があり全会一致で了承された。幹事会役員

会のメンバーとして、部会長、副部会長の他、菅原（理事）、佐藤（四部会担当）、福本

（広報）、森口（広報IT部門）、色川（総務）が指名され了承された。

斉藤部会長より昨年までの分科会体制の見直しを行い、幹事個々人に職務を分配し各々

が責任を持ってミッションに取り組む体制にしたい旨提案があった。特に反対意見はな

く、次回幹事会に担当案が提案されることになった。幹事会の開催時期については、総

会・協議会以外は土曜開催を中心に調整を進めることで了承された。

②総会の開催と位置づけ（斉藤）

　部会の総意を決定する会であるにも関わらず、例年参加人数が少ないことで、幹事会の決議＝部会の総意とする場として機能していない事などが問題提起され、要因として学会最終日の開催が恒例となっているなどがあげられた。今後も総会の位置づけについて議論を継続していくことになった。

③各種研修事業について

・フォーラム（杉原、山本）：継続していく方針で了承されたが、総会担当地方会幹事

と次年度担当幹事が担当しているがその経緯が不明瞭、どのようなテーマ設定、誰をター

ゲットにして開催するか、開催の予算負担（理事会・学会本体でも検討していただく）

など検討すべき課題が多々あることが報告された。

・プロフェッショナルコース（加藤、色川）：プロフェッショナルコース専属の運営委員・運営委員会によって例年好評を得ている。産業医部会の研修行事の一環と位置づけされているが、予算も独立していて、部会幹事会との連携は殆どないという現状。公益社団法人となった現状では、収支のあり方についても明確化する必要がある。コース継続のためには、部会幹事会が連携をとり支援体制を強化していくことが重要ではないかという意見が出された。

④学術研究支援活動について

・協議会でのポスター賞について（色川）：現状の説明と問題点について説明。次回、幹事会迄に案を提示することとなった。

・新たに設立した若手研究者の会や生涯教育研修員会との関係も今後検討していくこととなった。

⑤広報活動について

・HP（森口）：公開している部会HPの現況報告の他、HP閲覧に関する技術的な問題などについて説明があった。HPのバージョンアップ、活用に関して今後部会幹事会でも議論を継続していくことが確認された。

・部会報（岩田）：年3回の発行（次回7月発行予定）、内容の充実として若い人たちの情報交換となるような記事を紹介して行きたい、企画ものを掲載したいなどの案が紹介され、プロフェッショナルコースの実施内容を掲載するのはどうか？との意見も出た。

・対外的な意見表明：現在は意見表明すべき大きな課題はない。

⑥他部会との連携

・次期協議会（服部）：会期・会場が決定したなど現在までの準備状況について報告があった。（平成26年9月25日～27日、金沢市文化ホール・石川県文教会館）内容の充実をめざし企画中である旨報告された。

・四部会合同企画セミナー(佐藤、宇土)：今年度の協議会（名古屋）では、9月13日に合同セミナーを実施し、9月26日に発表会を分離して開催することが報告された。

　合同セミナー企画・発行の教育用DVDについては、改訂版（新版）を発行する意向であることが報告された。

・リレーワークショップ（佐藤）：第23回全国協議会では産業保健職間の連携というテーマで企画立案されていることが報告された。

・四部会長会議（斉藤）：理事会で位置づけが明確になり、会則の中に含まれることとなった旨報告がった。内容は部会長より幹事会で逐次報告する意向であることが伝えられた。

⑦他組織との連携

・専門医制度委員会（彌冨）：現在の委員会の作業進捗状況について報告があった。専門医制度委員会は部会細則のミッションであり部会がどのように関わっていくべきかは今後の検討課題とした。

・生涯教育委員会（織田・宮本）：活動内容（GP賞、総会のポスター賞の審査委員として

の協力、若手研究者の会の支援など）の概要について報告があった。

・政策法制度委員会（斉藤）：現状と今後の方向性について報告があった。

⑧他団体との連携

・労務学会（彌冨・岩田）：本年3月に九州地方会で開催した合同の研究会について報告と

連携した感想についての報告があった。又、労務学会との連携の困難さについても意見

があった。

・医師会（斉藤・宮本）：医師会が抱える認定産業医数、研修会での認定単位の発行など連

携を進めるメリットは大きいという意見が出された。関東地方会で議論されている医師

会との連携のあり方についての意見も紹介された。

⑨産業医部会の組織的位置付けと業務処理

・地方会の産業医部会なのか、学会部会の地方会なのか、それにより収支報告の方向性が

変わってくる

→　次回幹事会で議論することになった。

⑩第87回学術集会の準備状況について（山本）

　岡山コンベンションセンターにて平成26年5月22日～24日の会期で開催、日本衛生

学会と連続して開催し、5月25日に共同企画を予定している。産業医フォーラムについては、本年度に引き続いて「産業医の可能性と多様性Part2」を企画中。

⑪部会総会について（色川）

資料２従ってH24年度事業報告・収支報告、H25年度事業報告・予算案、についての報告があり、同内容を総会で承認を得る予定との報告があった。

⑫次回役員会ならびに幹事会について

　7月～8月の金曜、土曜で幹事の参加の可・不可を確認し、8月10日開催を第一候補とし

て調整することとなった。

⑬その他

宇土幹事より幹事会メンバーも執筆に関わった人間工学関連の書籍が発行される旨紹介があった。

（以上）